

## ✠021 七十人訳聖書

七十人訳聖書（しちじゅうにんやくせいしょ、Septuaginta 《セプトゥアギンタ、「70」の意》。LXXと略す）は、エジプトのファラオ・プトレマイオス2世フィラデルフォス Ptolemaios Philadelphos（BC308～BC246、在位：BC288～BC246）の命でヘブライ語とアラム語の聖書（＝旧約聖書）をギリシア語に翻訳した、現存する最古の旧約聖書（BC3世紀中頃からBC1世紀に、翻訳・改訂された集成の総称）。ギリシア文化の栄えていたエジプトのアレクサンドリアで作成された。Septuaginta（ラテン語）の由来は、旧約偽典（旧約聖書の正典・外典に含まれないユダヤ教・キリスト教の文書）のアリステアスの手紙※の伝える、72人のユダヤ人学者の手によって72日間で「モーセ五書」を翻訳したという説が有力である。伝統的に七十人訳とされているものには、ヘブライ語とアラム語で書かれた旧約聖書のギリシア語訳、旧約聖書からは除外された、経外書、外典、偽典なども含まれる。しかし、実際はギリシア文化に慣れてしまいヘブライ語に不自由になったアレクサンドリアのユダヤ教徒（ディアスポラ）が、礼拝に使う聖書として、時間をかけて翻訳をしていったとされている。七十人訳聖書は、以下の特徴がある。

- ・ヘブライ語原典の配列とは異なり、主題別・年代順に配列されている。  
⇒モーセ五書、歴史書（ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記、列王記、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記）、詩書（ヨブ記、詩編、コヘレトの言葉、雅歌）、預言書の順
- ・正典以外の続編（外典：Apocrypha）が含まれている。  
⇒例：知恵の書、シラ（集会の書）、ダニエル書補遺、マカバイ記1～2章等
- ・初代キリスト教にも採用されている。  
パウロや異邦人のキリスト者、古代のキリスト教思想家たちは、「聖書」＝「七十人訳聖書」であった。「七十人訳聖書」は、ギリシア語で書かれた「新約聖書」の中にも、「旧約聖書」から多く引用されている。

※アリステアス Aristeeus の手紙：旧約聖書外典（プロテスタント教会では〈偽典〉）の一書で、コイネー（古代ギリシアの共通語）による書簡体を模したBC2に作成された文学的虚構。プトレマイオス2世フィラデルフォスの宮廷人アリステアスが兄弟に書き送った形をとり、《七十人訳聖書》の律法部分の翻訳成立事情を記すほか、エルサレム見聞記、饗宴の席での王と翻訳者との質疑応答等を通して、ユダヤ人の優秀性を誇示する。